

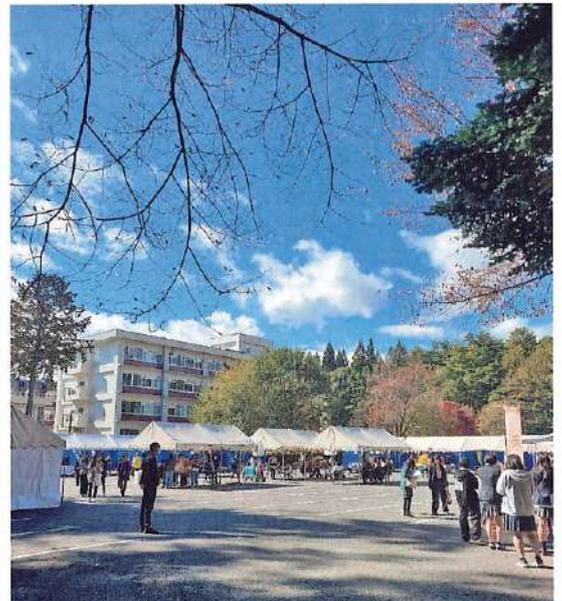
ゆりのき通信



正門 ～ゆりのき並木～



創立80周年記念イベント



落葉松祭

会長挨拶

農学部同窓会長
辻井 弘忠 (畜S43)



信州大学農学部同窓会会員の皆さまにおかれましては、益々活躍のこととお慶び申し上げます。

信州大学農学部は、1945年（昭和20年）に長野県立農林専門学校を創立の起点とし、1949年（昭和24年）に国立信州大学となり、2003年（平成15年）から国立大学法人信州大学として、現在に至っております。そして令和7年度に80周年を迎えます。

新型コロナウイルスの影響で、大学の講義、実習、クラブ活動など、人と人の交わりが一段と薄くなったように感じます。こうした状況を踏まえ、大学の活性化や在学生と同窓生との交流機会を増やすために、今年の5月18日に農学部創立80周年記念イベントとして、「地域と連携する農学部～伊那谷の歴史に関わり発展に寄与する研究～」を開催しました。地元の高校生ならびに多くの卒業生が遠方からも来学し、お陰様で盛会のうちに終了することができました。

来年は、80周年記念事業を本格的に計画しております。創立60周年の際には「写真でつづる農学部60年史」を発行しましたが、あれから20年が経ちました。80周年記念では「農学部80年の歩み」（仮題、写真集）を発行する予定です。記念事業の一環として、記念式典やシンポジウム、在学生と同窓生が交流できるホームカミングデーなどを企画しております。学生時代を思い出して、ぜひ親しい友人をお誘いあわせの上、ご参加ください。

ここで、信州大学に関するピックアップニュースを紹介しておきます。令和5年12月、信州大学が文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に、信州大学が提案した「水・

エネルギー共創研究センター」（松本キャンパス内）が採択され、大型予算が付きまして。国立22、公立2、私立6の計30大学の内の一つに選ばれております。この提案は、本学が世界トップクラスの実績を持つ、水の浄化や水由来の水素エネルギー関連の先鋭材料研究を核に、研究の卓越性、イノベーション創出、地域貢献を一体推進するものです。

農学部同窓会の運営についてですが、同窓会費の納入率が年々減少しており、運営が厳しくなっております。この秋から郵便料金の値上げが予告されております。今回の「ゆりのき通信」40号は、郵便料金の値上げ前に繰り上げて発行いたしました。これからの同窓会の運営を考えますと、経費をできるだけ削減することが鉄則ですので、「ゆりのき通信」を紙媒体からインターネットによるホームページでの発行に切り替えたいと考えております。令和7年の「ゆりのき通信」41号は、最後の紙面版とインターネット版の両方で発行する予定です。インターネットにあまり馴染みのない方にはご不便をおかけしますが、少しずつ慣れていただきたいと思っております。

ゆりのき通信の送付が、なくなった後は同窓会のホームページが皆様と同窓会をつなぐ唯一の手段です。また、同窓会の運営や連絡を円滑に進めるために、皆さまとの連絡手段を強化することが重要です。今後は、皆様と同窓会はホームページ、メールなどITを通して意思疎通を計りたいと思っております。

最後になりましたが、同窓会の皆様のご活躍と健康をお祈りしております。

J-PEAKS 研究大学群における 信州大学農学部の存在意義

学長
中村 宗一郎



農学部同窓生の皆さまにおかれましては、お健やかに過ごされていることと存じます。

さて、早速ですが、この機会を利用して、信州大学の状況を皆さまと共有できればと思います。ご存知のように、信州大学はグレーター・ユニバーシティ・ビジョン、Vision for Greater Shinshu University、VGSUという大変大きな志を掲げています。これは多様な学問分野、業界、世代、そして地域社会に分散している「人」や「知」を結集、共有、活用することで、新たな価値を創出し、地域の発展に貢献するエコシステムの構築を目指すものです。本学は、大学の使命である教育、研究、そして社会貢献における本学の特色や強みを

伸ばし、地域の社会課題を解決するための「知」を豊富に揃えることを目指しています。VGSUでは、地域の活性化に貢献するため、「Extend（伸ばす）」、「Expand（広げる）」、「Enrich（豊かにする）」という三つの「E」をキーワードに掲げています。これは本学の価値創造のステップでもあり、地域の発展をけん引し、豊かな社会とより良い未来を創ることを意味します。VGSUに先立ち、本学は「大学改革実行プラン inGEAR：inGenious, Enterprising and Actionable Regional revitalization」を策定し、地域中核・特色ある研究大学としての目指す姿を定めています。inGEARに加えて、新しい行動指針ともいうべきVGSUを掲げることができましたので、

地域の大学としての存在感は、今後より一層高まるものと期待されます。その証左として、昨年、本学は、地域中核・特色ある研究大学 J-PEAKS、12 大学の 1 つに選定されました。J-PEAKS は、大学ファンドによる国際卓越研究大学と対をなすものと目されているものです。この枠組みに認定された大学には、日本全体の研究アクティビティを強化・向上させ、世界における日本のプレゼンスを高めることに加え、革新的な価値創造のフロントランナーとしての使命を果たすことが期待されています。「この研究分野ならこの大学」ということで、本学の「水及び水由来グリーン水素」に関する研究実績が評価されました。

信州大学には、今、水の惑星地球における「水のサステナビリティ」の維持向上という重要な任務が課せられています。これには、水の高度循環や革新的な水素生成技術を含む水資源の高度利用の分野において先導的な役割を果たすこ

とが含まれます。J-PEAKS 研究大学群の一員となった信州大学に対する社会からの期待には、極めて大きなものがあります。サステナビリティ・トランスフォーメーションが声高に叫ばれている今日、農学の学問分野はますます重要になってくるものと確信しています。今こそ、農学の存在価値、真価が問われているのだと思われます。おりしも、2025 年には、信州大学農学部創立 80 周年という節目を迎えます。今年は、記念すべきイベントやプログラムが数多く予定されていると伺っています。これらは農学部同窓会の絆をさらに強固なものにし、共に新しい道を切り拓く絶好の機会となるでしょう。私たちは今、新たなマイルストーンを打ち立てようとしています。農学部の伝統に新たな章が刻まれ、未来への一歩が確かに踏み出されることを、心から願っております。また、農学部同窓会の皆さまお一人おひとりのご健勝と知的躍動を心よりご祈念申し上げ、結びの言葉とさせていただきます。

学部長挨拶

農学部長
米倉 真一



農学部長を務めております米倉真一と申します。農学部同窓会の皆様方におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。また、日頃より農学部の教育・研究にご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、5月に新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行するなど、3年余り続いたコロナ渦がようやく収束し、大学もほぼ日常を取り戻したように思います。昨年10月には久しぶりに「落葉松祭」も開催され、学生の息吹を感じることができました。また、卒業式も、コロナ渦では学部卒業生と大学院修了生が別々の教室に参加する形で実施していましたが、3月の卒業式では、コロナ前と同様、30番講義室に卒業生・修了生全員が参加して挙行することが出来ました。アフターコロナとなり、改めて、対面交流の大切さを認識することが出来たと思います。今年度は、学生の縦と横の対面交流、学生と教職員との対面交流を推進していきたいと考えております。

さて、ご承知のように、1945年（昭和20年）2月、専門学校令により長野県にも県立の農林専門学校の設立が認可され、1949（昭和24）年制定の「国立学校設置法」によって新制大学が誕生する際、この農林専門学校が現在の信州大学農学部の母体となりました。したがって、来年、信州大学

農学部は“創立”80周年を迎えることとなります。卒業生は、農林関係はもとより、広く官界、産業界、学界において活躍されており、これまでの卒業・修了生は約1万名にも及びます。大学という高等教育機関において、卒業生こそが大きな財産であり、益々、同窓生の方との連携が重要になると考えております。そのような考えの中、昨年、農学部教職員および同窓会会員から構成される「信州大学農学部及び信州大学農学部同窓会の連携に関する合同推進委員会」を設置しました。この合同推進委員会では、信州大学農学部と同窓会が発展的に連携するための企画等を、継続的に検討・実施することを目的としております。現在、来年10月に開催予定の「信州大学農学部80周年記念式典」の企画と準備を進めているところでございます。

この80周年を契機に、ホームカミングデー等を企画し、卒業生の方がいつでも母校へ戻り、集える環境も整備していきたいと考えております。その際は、同窓会の皆様のご協力を賜る必要がございますので、ご助言等頂ければ幸いです。今後とも引き続き、農学部に対して温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後になりますが、卒業生・修了生の皆様のご健勝と今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

信州大学農学部のように、公式SNSで見ることができます。
素敵な写真や動画を投稿しています。ぜひフォローしてください。

●信州大学農学部
Instagram



●信州大学農学部
Facebook



●信州大学農学部
生産品直売所 X



●信州大学農学部
演習林 Instagram



伊那で頑張っている卒業生

パン ちやるら 長谷

古川 浩二 (化H2)

まず、この度はゆりのき通信への寄稿の機会を頂いたことに感謝いたします。

私は信大農学部を卒業後、そのまま大学院に進学しましたので、平成4年春に就職するまで伊那には5年間生活していました。当時は、日本がバブル景気で苦勞せずに就職でき、しかも企業から返済不要の奨学金が支給される制度まであり、何とも恵まれた時代でした。就職先は化学系メーカーで、アクリル樹脂の研究開発、生産管理の技術者として約30年勤めました。しかし、約2年半前に早期退職にて辞め、パン屋になろうと決心しパン屋でパートや修行見習いをしながら拠点を探していました。当初は自宅のある愛知県豊橋市の近郊で探していたのですが理想の物件が見つからず、伊那谷まで範囲を広げ、運よく今住んでいる長谷の古民家に巡り合えました。学生の頃には、時々長谷を訪れていたので移住への不安もさほどなく、また集落の皆さんも歓迎して頂きました。余談ですが、あと2年もすれば還暦となりますが、集落の中では下から二番目の若造です。

そして23年の春から移り住み、愛車を軽トラックに乗り換え、約1年かけて古民家を自らリフォームし、パン屋をオープンすることが出来ました。



ここまで書くと、順調なセカンドライフを始めたように思われるかもしれませんが、実は、会社を辞めるまでパンを自分で焼いたことなど全くなく、またパンが大好きな訳でもありませんでした。自営で始めるならパン屋が良さそうかな？1年ほど製菓学校に通えば何とかかな？くらいの知識しかありませんでした。なので、会社を辞めた後

にパン屋開業に関する情報を集め、現実を知る羽目になりました。まずは経験を積むためにパン屋で働こうと思いましたが、中年未経験のオヤジを雇ってくれる店はなく、やっと見つけたパートでは、掃除と片付け、レジ打ちなどが主務でした。お店を持つなど夢なのかと思っていたところ、同じように異業種からパン屋を自力で開業された方に巡り合い、最初は門前払いでしたが半年間通い続け、何とか頼み込んで半年の修行をさせて頂きました。



私のパンは、国内産小麦と自家製酵母を使用し、これを自作の薪窯で焼き上げます。これらは前述の師匠譲り、自分の拘りではなくこの方法しか知らないのです。

さて、パン屋を営むなら長谷ではなく、伊那や高遠の街中のほうが集客に適しているのは確かです。雨や雪が降れば、長谷の山奥までパンを買いに来るお客さんはごくわずか、その日から売れ残りのパンをひたすら食べ続ける日々が始まります。



私のパン屋は、単にパンを売るのではなく、日頃の多忙な生活から少し抜け出し、のんびり、ゆったりとした時間を過ごしていただくこと、心のリフレッシュができる空間を提供することを目指したお店です。店内には休憩スペースを設け、心地よいBGMを流しています。屋外に休憩用のハンモックも設置済み。次は足湯かサウナが良いかと夢を見ている。

悠々自適のセカンドライフを夢みている方、どうぞお越しください。楽しく厳しい現実をお話しますよ。

同窓生の著作紹介

▼藏之内利和さん (園S59)
『根っここのふしぎな世界第1巻 根っこつってなんだろう?』文研出版、2023年 (参加)

▼伊藤俊康さん (化S47)
『ピタゴラスの定理の扉を開く…組合せ・散布図・数列・素数』(東京)福出版、2023年 図書

▼小島理恵さん (森H6)
『はじめてのオーガニックな庭づくり』(家の光協会、2023年)

▼四井真治さん (森H9)
『地球再生型生活記』(KIT中央出版、2023年)

▼近藤幸夫さん (林S59)
『ライチョウ、翔んだ。』(集英社インターナショナル、2024年)

※同窓生の著者(概ね最近5年間のうちに発行されたもの)がありましたら、同窓会事務局までご連絡ください。

ホームカミングデー

令和6年10月19日(土)に開催予定。詳しくは、ホームページをご覧ください。

このたびの、能登半島地震および台風・豪雨などの自然災害により、被災された多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。

人生の転換期

渡邊 毅哉 (食H27)

信州大学農学部食料生産科学科を卒業して、はや9年が経ちました。私の出身は静岡県ですが、なぜ信州大学の農学部を志望し入学したのか、当時を振り返ってみると、特に第一志望としていたわけではなく、ただ漠然と動物や生態について学びたいという思いでいたところ、たまたま高校の担任の先生に紹介を受けたことがきっかけでした。農学部では河原岳志先生のもとで、生体の不都合な応答によって生じるアレルギーや炎症性疾患の症状を緩和できるような機能性食品素材の探索を行っていました。私はその中でも酵母菌による抗アレルギー作用について、マウスを用いて研究していました。動物にも関わることができ、生態も学べる非常に面白い研究であり、本学部に入學して良かったと感じていたのを覚えています。

大学卒業後は民間の食品会社へと就職し、転勤のために転々とした生活をしておりました。そのような生活の中で子どもにも恵まれ、いつかは自然に囲まれた環境下で、のびのび生活をしたという思いが生まれ、その思いは次第に強くなっていきました。私の出身は静岡県ですが、妻は長野県出身であり、また、大学時代に生活圏となっていた伊那市に住みたいという思いが芽生え、伊那市役所に応募したところ内定をいただくことができ転職することにいたしました。実際に子どもとともに住んでみると自然の豊か

さを改めて実感し、大自然の中で楽しく生活をしております。

さて、転職先の伊那市役所では何をしているかと申しますと、現在は子育て支援課に勤めております。子育て支援課というと保育園への入園手続きであるとか、児童手当の交付であるとか、その辺りをご想像されるかと思いますが（私はそうでした笑）、保育園の施設に関する業務（園舎の営繕や管理等）を担当しております。前職での経験や大学で学んだ知識はほとんど生かせない職種ではありますが、何とか毎日を乗り越えております。

市役所の仕事は多岐にわたりますので、全く知らない業務が振られることもあります。そのような中では他部署への相談や連携が必要になりますが、その際に相談する相手も信州大学卒という共通点があることで、自然と打ち解けやすくなり、仕事の相談もしやすくなっています。（実際によく相談に乗っていただく他部署の方が信州大学卒です。）また、同期の中にも1人信州大学卒がおりますので、たまにお酒を飲みながら仕事について語り合うこともあります。信州大学卒と聞くとすぐに打ち解けられそうな気がするのは私だけではないのではないのでしょうか（笑）。

市役所という仕事上、ある種転職のような全く知見のない部署に異動になることもあるかと思えます。どの部署に異動になったとしても市の職員として真摯に業務に取り組みたいと思えます。また、自然あふれる伊那市で公私ともに充実した生活を送っていきたく思っております。

農学部コース再編のお知らせ（令和7年4月～）

令和7年4月より、信州大学農学部はこれまでの4コースを、3コース+1特別コースにコース再編します。



信州の地から、農学の未来を創る

令和7年4月

特別コース始動

分野横断型の教育を強化 ● 課題解決型学習（PBL）を推進

1学科4コース

- 生命機能科学コース
- 動物資源生命科学コース
- 植物資源科学コース
- 森林・環境共生学コース

1学科3コース・1特別コース

- 生命・食品科学コース
- 食料生産システム科学コース
- 山岳園森林・環境共生学コース

地域協創特別コース

信州大学 農学部
SHINSHU UNIVERSITY

詳細は、信州大学農学部ホームページをご覧ください。

大学史資料センターから 資料収集へのご協力のお願い

信州大学では2017年に「信州大学大学史資料センター」を設置し、本学に関する資料の収集・整理・保存を進めており、農学部からは300点を超える資料をご寄贈いただいております。資料をご提供いただけます方は、ぜひ情報を大学史資料センターにお寄せください。

お問合せ・連絡先

信州大学 大学史資料センター
〒390-8621 松本市旭3-1-1
TEL: 0263-37-3531 FAX: 0263-37-3532
MAIL: archives@shinshu-u.ac.jp

※ 展示の様子など、大学史資料センターのウェブサイトもご覧ください。



◆◆◆ 令和5年度 ゆりのき賞 受賞者一覧 ◆◆◆

4年生における学業成績が優秀であるもの

コース	氏名
生命機能科学コース	櫻井 杏実 田郡 穂佳
動物資源生命科学コース	位田 宗一郎 遠藤 アリマリ
植物資源科学コース	中野 日陽 星野 琴美
森林・環境共生学コース	木村 温 神江 真衣

新たな農業貢献

朴永俊 (院H20)

私は韓国農漁村公社の農漁村研究院に責任研究員として在職している朴永俊 (Park, Young-Jun) と申します。大韓民国の尚志大学生命資源科学部応用植物科学科に在籍中の2005年度に日本の文部科学省による国費短期留学制度を利用して、1年間、信州大学農学部応用生命科学科に留学し、それに続き2006年度より同大学院農学研究科機能性食料開発学専攻、さらに2008年度からは同総合工学系研究科生物・食料科学専攻 (博士課程) 進学し、研究テーマ「Molecular Genetics of Gene encoding Granule Bound Starch Synthase I in Grain Amaranths」により学位を取得しました。この研究は分子生物学的解析を通じてアマランサス属植物の子実中に含まれるデンプンの合成に関する *GBSSI* 遺伝子の cDNA 全長配列およびそのゲノム構造や、同属植物のモチ・ウルチ性を決定する *Waxy* 遺伝子の cDNA およびゲノム構造を明らかにしました。さらに、同属植物の多様性解析や進化的解析、植物生体内での発現解析も実施してきた他、マーカー選抜育種に用いる分子マーカーの開発を行うなど、ゲノム構造解析を用いた幅広い研究を展開してきました。

信州大学農学部での研究活動は私にとって非常にやりがいのあるものでした。所属していた植物遺伝育種学研究室の先生方は学生の研究成果が達成できるようにサポートし、時間を費やしてくださいました。特に、先生方から研究者としてのあり方、そして自分のキャリアを実現する手段などを学びました。先生方の全面的なご支援があったからこそ今私自身のポテンシャルを発見し、自分で研究を全うする方法を習得できたと確信しています。

2011年の博士課程の修了後には、日本学術振興会の JSPS 外国人特別研究員に採用され、活動の拠点を独立行政法人農業生物資源研究所 (当時) の遺伝資源センター多様生活用研究ユニットに移し、研究を継続しました。新天地でも引き続きアマランサスのデンプン構造を支配する遺伝子等に関



大学院生の時の集合写真 (2007年7月)
中央黒いTシャツが筆者

する分子遺伝学的な解析や、その多様性についての研究を進め、多大な成果を上げることができ、20報以上の英文原著論文を執筆することができました。さらに、

2014年度からは母校信州大学農学部の植物遺伝育種学研究室に研究員として戻り、文部科学省概算要求プロジェクト「工農連携による農業イノベーション創出基盤の構築」において、トウガラシでありながら辛味が極低い遺伝子型をもつ S3212 (*C.frutescens*) の辛味制御機構の解明について研究しました。本研究で明らかになった辛味制御機構を、通常の「ししとう」などのトウガラシ品種に導入することで、安定的に極低辛味となるトウガラシ品種が育成される可能性をみいだしました。

さらに帰国してからは韓国の農業基盤を支えている韓国農業村公社 附属農漁村研究院に入社し、干拓農地を対象に汎用化技術 (低費用高効率暗渠および地中かんがい) の開発や土壌管理、栽培試験などの研究を行っています。とくに、



韓国農漁村公社と日本農林水産省農村振興局との
会談後の記念撮影 (2023年1月)
後段左から2番目が筆者

土壌塩分を除去させる技術開発、土壌改良剤の開発、地表・地下排水管理技術開発、作物栽培のガイドライン開発を行い、それらを融合させた干拓農地管理方法で干拓地での作物栽培を成功させています。

現在は「未来の農業に対応するスマート農業インフラの構築」を目的とし、韓国政府から日本へ派遣され、信州大学農学部との国際共同研究を実施するために、松島憲一教授のご指導のもと、客員研究員として調査、研究を実施しています。主に日本におけるスマート農業の政策や全国単位で行われているスマート農業実証プロジェクトに関して現地調査を行い、最終的には既存農地活用モデルおよび大規模農地活用モデルなど農地の形に適した次世代農業の基盤づくりを目指しています。今後は、母校信州大学との共同研究のみならず、日本政府 (農林水産省) や地方公共団体 (伊那市など)・企業 (クボタなど) との連携をもとに両国のスマート農業の政策支援および、これからの新たな農業に貢献できるよう実用性ある研究を実施していきたいと思いを。

事務局からのお願い

- ①「ゆりのき通信」は80周年 (来年) をもってウェブサイトに移行します。今後80周年記念事業をはじめ各種イベント情報を掲載し、参加申込みウェブサイトから行うようにいたします。ぜひ定期的にウェブサイトをご覧ください。
- ②会員情報の変更及びメールアドレスの登録が同窓会ウェブサイトからできます。是非ご利用ください。
- ③同性同名の方もいらっしゃいますので、振込用紙には氏名の他、会員番号またはご住所を明記してください。



「北信ゆりの木会」8年振りに開催

北信ゆりの木会 会長 北原 富裕(圖S56)

本学部北信地域の同窓会「北信ゆりの木会」の総会を本年1月30日に長野市内のホテルで開催しました。

8年ぶりの開催であったため、何名が出席いただけるのか大変心配しましたが、前回出席者への通知や「ゆりのき通信」での告知のほか、役員等による職場関係や同年生へ声掛けなどにより、当日は昭和37年卒の先輩から令和2年卒の若手まで幅広い年代の27名が参加していただきました。また、ご来賓として農学部同窓会会長の辻井弘忠様にご臨席をいただきました。

全員での記念写真の撮影の後、総会となりました。

主催者あいさつとして、私から、能登半島地震被害へのお見舞いを述べたのち、平成28年2月以来8年振りとなった経過とお詫びと、今後は毎年開催としたいとの決意表明をしました。また、若い方や県職やJ A関係者以外の幅広い同窓生が世代や



職場を越えて集まれるよう検討すること、来年は農学部創立80周年に当たることから、次の同窓会では記念となる企画を

考えたいと提案をしたところです。

続いて、辻井同窓会会長様から来賓祝辞をいただきました。辻井会長からは、農学部の最近の動向とともに、来年の農学部創立80周年に向けて、学部や同窓会で様々な企画を検討中であるとのことのお話がありました。その中で、記念イベントとして5月に「地域と連携する農学部」と題してシンポジウムを開催するとのこと案内もありました。



その後、役員改選が行われ、副会長と幹事の若返りを図ることが提案どおり承認されました。

総会に引き続き、顧問の平澤幸雄様(林S37)の乾杯により懇親会となりました。席での暫しの歓談の後、卒業年次の若い方から順次に出席者全員による自己紹介となりました。職場や農業・自営で頑張っている近況や、辻井先生を始めとして学部時代の担当教官との思い出、中原寮でのエピソードなど楽しい話題がたくさん紹介されました。

自己紹介の後には、旧交を温める方、年代を越えて研究室での思い出に花を咲かせる方など時間を忘れて楽しいひと時を過ごしたのち、来年の同窓会での再会を約束してお開きとなりました。

来年の「北信ゆりの木会」には、多数の同窓生が参加いただけますよう期待いたします。

農学部同窓会松本支部総会報告

松本ゆりの木会 会長 塩原 資史(圖S54)

農学部同窓会松本支部は諸先輩のご尽力で活動していましたが、平成22年に規約を定め、松本ゆりの木会として正式に発足しました。本年度で15年目を迎え、会員は440名を超えるまでになりました。

コロナ禍で5年ぶりとなる本年6月20日に、来賓に辻井会長をお迎えし、20代から90代までの老若男女23名の出席を得て、総会を開催しました。



辻井会長からは、農学部創立80周年記念事業、同窓会の財政状況、会報郵送の廃止等についてお話がありました。支部として

も開催通知を郵送で行っており、経費節減に向けメールを活用したらどうかとの意見が出され、今後メールアドレスの登録を進めていく方向となりました。



また、同窓生による講演会を初めて開催しました。講師を長野県林業総合センター育林部長小山泰弘さんをお願いし、「長野県中部におけるニホンジカの動態」と題してお話いただきました。長野県の獣害は、昔はカモシカ、今はニホンジカ、増え始めているのがツキノワグマとのことです。ニホンジカの生息数は有害鳥獣駆除によって減少しておりますが、植生が豊かな(エサが多い)ところでは横ばい傾向だそうです。

懇親会では個々の近況報告や思い出等を話していただくとともに、それぞれ交流を深めてもらいました。年1回の開催ですが、より多くの皆様の出席が望まれるところです。

東京ゆりの木会総会が2024年6月15日に開催されました。
詳しくは、同窓会東京支部「東京ゆりの木会」のウェブサイトをご覧ください。

原稿募集

同期会・支部活動の記事、身近な出来事等、投稿をお待ちしております。

信州大学農学部創立 80 周年記念プレイベント シンポジウム「地域と連携する農学部」の開催報告

イベント企画担当 北原 正義 (ES45)

信州大学農学部は 1945 年（昭和 20 年）長野県立農林専門学校として設立され、以来 80 年の時を刻み 2025 年（令和 7 年）に 80 周年を迎える。これを記念して信州大学農学部同窓会はプレイベント「地域と連携する農学部」を開催することで、農学部が如何に地域に貢献し地域から愛されてきたかを地域に向かってアピールしようと企画した。

発端 ①昨年（2023 年 4 月）の同窓会決算書の監査で私（監査人）から「記念事業では農学部に金銭的な支援をするだけでなく、同窓会が主体となって応援する事業を展開したらどうか」と指摘させていただいた。
②私ども同級生が伊那で喜寿の同級会を開催したいと言っているのです、その事業に相乗りさせていただきたい。以上の事由で同窓会主催の事業を企画するよう同窓会長から指示されることになった。

経過 2023 年 5 月から企画書づくりを開始し事務局段階で熟度をあげてきた。企画担当者（私）と事務局で企画書作りに没頭できたのは、同窓会長が「金は出すが口は出さない」という主義のお陰であった。出演者から演題に至るまで全てを一任された。手作りを旨とし 80 周年の歩み（パネル）は正月に家に持ち込み家内とともに模造紙の貼り付けや写真の添付など夜を徹して行った。信州大学を目指す高校生に聞いていただきたいという一心から伊那市内の高校に教頭先生を訪ね生徒の参加を要請した。参加申し込みの期限が近づき 60 名余という数字に事務局のお二人は会場から考えて上出来、参加高校生の

学校名は不要と主張、予備の席 40 席まで用意したことから 100 名近くでないことと不満、学校名は入れるべきと私。親娘喧嘩に近いにらみ合いが続いた。



当日 直前の電話攻勢の効果があり 90 名近くの参加者となり熱気に包まれた会場になった。研究発表は地域に密着した親しみやすいテーマであり、かつまたプロジェクターを駆使したわかりやすい説明で好評を博した。コーディネーターの取り纏めはマトを得たものであり後の全体討論へ誘導するような締めくくりであった。全体討論（質疑応答）では 6 名から提案があり、それぞれに講師から回答するなど時間制約が無ければまだ続くような活況を呈した。

5 月 18 日（土曜）13:30～16:00 開催

総括 「地域と連携する農学部」は地域へのアピールと言う点では申し分ないが、全国津々浦々から参加された同級生からは、もう少しグローバルで純学問追求型のイベントで欲しかったと指摘された。来年の本イベントで参考にされたい。



喜寿に感謝の同窓会

城戸 莞爾 (ES45)

昭和 45 年（1970 年）に卒業して約 54 年。山あり谷ありの人生行路を乗り越え、無事喜寿を迎えることが出来た友があつまりました。

5 月 18 日（土）新築の伊那市西箕輪「inadani sees」で、「信州大学創立 80 周年記念プレイベント」が開催されました。参加者は農学部同窓生・教員・地域の方々 90 名。その内 16 名が喜寿の仲間達です。4 名の先生から研究成果が発表されました。参加者の中からこれを機会に伊那谷の自然資源を生かして、校内の景観を高めて行こうとの意見も出ました。先生方皆さん有難うございました。

久しぶりの仲間との懐かしい一献。一番元気だった病気中の友に皆で励ましの寄書、そして各々の現状の紹介（みんな長めの一言）、懐かしい「春寂寥」の寮歌を歌いました。

翌日は諏訪湖と遠州灘を結ぶ天竜川支川三峰川の美和ダム（60 年経過）を見学、城跡と桜の共存、歴史博物館・高遠散策後高遠蕎麦で昼食、皆は満悦至極。

来年 2025 年は学部創立 80 周年、次の目標は米寿、その為には自信を持って前向きに日々暮らすのが何よりの良薬です。大変な時こそ、顔を大空のすっきりと晴れたお日様に向け、笑顔で【顔晴る】“がんばる”という、自分の生き方を前向きに考え実行している仲間達は、頭も体もまだ大丈夫「顔晴ろう」。



高遠散策 城址公園

手良沢山演習林管理棟の改修

小林 元 (林H3)

前報でもお伝えしました、手良沢山演習林管理棟の改修が昨年暮れに無事竣工いたしました。実習時の講義棟も兼ねていた同管理棟は国有林時代の建築物で、昭和44年に手良沢山演習林が国有林から移管された際に引き継がれた建物でした。改修は地表面がむき出していた床下のセメント打ちから始まり、腐朽が進行していた木製の基礎も新たにコンクリートで組み直されました。外壁には断熱材がふんだんに盛り込まれ、空調設備も完備されました。これまで男女の区別なく2器しかなかった浅堀の汲み取り便所は、男女別々のウォシュレット付きの水洗トイレに変わり、新たに多目的トイレ

も加わりました。建物の入り口にはスロープが設置されており、どなたでもバリアフリーに利用できるよう整備されました。コミュニティースペースとして設計されたフローリングの居間には薪ストーブが置かれ、来訪者が気楽にくつろげるよう開放しております。また、研究目的を想定した外部利用者には宿泊もできるよう、デスクとベッドを備えた個室を2部屋用意しました。実験室もリノリウムの床に張り直し、実験台や薬品庫も新調しました。まるで本学キャンパスに居るかのように感じるこの快適な管理棟に、4月から森林・環境共生学コースの学生40余名を迎え入れ、実習を行っております。



ゆりのき資料館の現状報告

農学部同窓会長 辻井 弘忠 (畜S43)

農学部創立60周年記念事業で建造されたゆりのき資料館には、展示室・収蔵室、同窓会事務室、研修室及びサロンが



整備、数年後には農産物直売所が移設され、創立70年に講義棟耐震工事に伴う増築が行われた際にはさらに講義室、研修室やラウンジが増設、また講義棟工事

後に再改修されIT環境ならびに宿泊施設、ミーティングルームが整備されました。これらの施設は講義室・研修室として活用され、講義棟耐震工事の際の講義室、学部・大学院入試等に使用され、宿泊施設も短期滞在の研究者、集中講義・学会など来学の先生・卒業生などに活用されています。資料館も地元の小学生が訪れて動物のはく製などを見て歓喜の声を上げております。

この春、留学生確保のために短期宿泊場所の整備を行うこととなり、ゆりのき資料館の一部のラウンジやミーティングルームを改造して短期の外国からの留学生の宿泊室を増設、自炊ができるようになり、5月末現在までに既に4名が利用しております。

旧同窓会館跡地について

渡邊 修 (生H5)

伊那市荒井にある旧同窓会館の建物は老朽化が著しいため、令和5年10月に撤去され、更地となりました。敷地は閑静な住宅地に位置し、日当たりも良好で南と東の両方が公道に面した角地であることに加え、快適な生活を送るのに最適な環境となっています。理想の家を自由に設計・建築することが可能で、上下水道も既に引き込まれているため、すぐ

に建設を開始でき、人気の伊那小学校区、という内容で小松商会を通じて不動産情報を公開しています。場所は伊那市荒井、地籍：665.36m² (201.3坪)、地目：宅地、建ぺい率：60%、売却予定価格：1400万円となっています。この機会に財団の基本財産として有効活用を図りたいと思います。荒井の旧同窓会館について、問い合わせ等がありましたら、農学部同窓会事務局へご連絡ください。



4年ぶりの落葉松祭 信州大学農学部同窓会の皆様

令和5年度第67回落葉松祭実行委員会

この度は令和5年度第67回信州大学農学部落葉松祭へのご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございました。皆様のお力添えによりこの度の第67回落葉松祭は盛況を博すことができ、心より御礼申し上げます。



私共第67回落葉松祭実行委員といたしましては久方ぶりとなる通常規模での落葉松祭の開催であったこ

ともあり、試行錯誤を重ねた結果落葉松祭を開催することが出来た次第です。その過程では、農学部同窓会会長である辻井弘忠様をはじめ多くの方々からお力添えをいただきました。あの時お力添えをいただいでいなければ、落葉松祭は盛況のうちに終わることはなかったと思う次第であります。この場をお借りして御礼申し上げます。

また、信州大学農学部同窓会の皆様におかれましては是非とも今後開催される落葉松祭に足をお運びいただき、農学部生の趣向を凝らした催しを体験していただくとともに信州大学農学部キャンパスの自然が織りなす風景をお楽しみいただき、ともに落葉松祭を盛り上げていただければ幸いに存じます。

重ね重ねではありますが、この度皆様から賜ったご支援、ご協力につきまして略儀ながら書中をもって御礼申し上げます。今後とも何卒よろしくお願いたします。

信州大学農学部同窓会 令和5年度 収支決算書	
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)(単位:円)	
収入総額	6,515,533
支出総額	6,156,821
繰越額	358,712
収入の部	
前年度より繰越	591,110
同窓会費	3,024,000
年会費	1,866,000
法定福利費	5,426
雑収入	528,997
特別会計より繰入	500,000
合計(A)	6,515,533
支出の部	
会報発行費	1,862,554
農学部支援費	159,922
支部支援費	200,000
信大同窓会連合会	70,000
財団支援費	2,000,000
人件費	1,123,960
旅費交通費	77,600
会議費	21,835
総会費	176,036
交際費	56,705
通信費	48,429
消耗品費	68,083
水道光熱費	25,056
振込手数料	115,210
雑費	35,228
法定福利費	16,203
予備費	100,000
合計(B)	6,156,821
繰越収支差額(A)-(B)	358,712
特別会計	
収入の部	
前年度から繰越	6,258,632
預金利息	98
合計(C)	6,258,730
支出の部	
支出の部	500,000
合計(D)	365,200
繰越収支差額(C)-(D)	5,393,530

公益財団法人信州農林科学振興会 令和5年度 収支報告	
(令和5年6月1日～令和6年5月31日)(単位:円)	
I 一般正味財産増減の部	
1 経常増減の部	
(1)経常収益	
①基本財産運用益計	839
基本財産受取利息	839
②受取寄附金計	3,540,500
受取寄附金	3,340,500
受取寄附金振替額	200,000
③雑収益計	1,453,946
受取利息	66
引当金戻入	850,000
定期預金取崩	568,880
その他	35,000
経常収益計	4,995,285
(2)経常費用	
①事業費計	
研究助成費	600,000
教育助成費	1,200,000
国際交流助成費	120,000
その他助成費	0
その他事業費	5,264
会議費	9,100
消耗品費	22,660
給与手当	640,000
法定福利費	12,256
雑費	43,006
②管理費計	756,058
会議費	36,705
旅費交通費	62,000
通信運搬費	108,141
消耗品費	50,680
賃借料	23,740
諸謝金	44,000
給与手当	328,805
法定福利費	6,128
雑費	95,859
経常費用計	3,408,344
2 経常外増減の部	
(1)経常外収益	0
(2)経常外費用	1,453,880
①固定資産除去損	1,453,880
当期一般正味財産増減額	133,061
一般正味財産期首残高	1,248,960
一般正味財産期末残高	1,382,021
II 指定正味財産増減の部	
①一般正味財産への振替	-803,880
当期指定正味財産増減額	-803,880
指定正味財産期首残高	64,913,075
指定正味財産期末残高	64,109,195
III 正味財産期末残高	65,491,216

公益財団法人信州農林科学振興会 令和6年度 事業計画	
1. 研究助成	
(1)信州農林科学振興会賞	
・野村 亘 信州大学学術研究院(農学系) 助教	
「酵母の発酵経路酵素Pdc1の欠損株が示す新規表現型の解析」	20万円
(2)信州農林科学振興会賞	
・椎葉 湧一朗	
信州大学農学部付属アルプス圏フィールド科学教育研究センター 助手	
「そば殻の敷料副資材利用における資源循環型畜産システムの確立」	20万円
(3)信州農林科学振興会賞	
・徳武 優佳子 信州大学農学部 助教	
「カブサイシン給与が肉用鶏の筋成長に及ぼす効果の解明」	20万円
2. 教育助成	
I 給付奨学金	
(1)伊那中央ロータリークラブ教育助成金	
・XU WENJUN	
信州大学大学院 総合理工学研究科 総合理工学専攻	
博士2年	42万円
・MD. Badiul Alam	
信州大学大学院 総合理工学研究科 農学専攻 修士1年	42万円
(2)駒ヶ根ロータリークラブ教育助成金	
・Amee Shusmita Jahan	
信州大学大学院 総合理工学研究科 農学専攻 修士1年	36万円
II 渡航費助成金(給付)	20万円
3. 国際交流助成	
・信州大学農学部留学生支援の会 会長 米倉 真一(学部長)	
日本文化研修事業の実施、及び留学生保険補助の実施	12万円
4. 特別講演会	
令和5年度の研究助成金受給者による研究報告講演会 (令和6年11月頃)	
(1)信州農林科学振興会賞	
・叶 戎玲 信州大学農学部 助教	
「マルチスペクトルカメラ搭載ドローンを用いたダイズ病虫害検出の検討」	
(2)信州農林科学振興会賞	
・鄭 乾峰 信州大学バイオメディカル研究所食品化学研究室 助教(特定雇用)	
「フェネチルアミンの継続摂取が高脂肪食誘発脂肪肝マウスの認知機能及び肝臓糖代謝に及ぼす影響」	
(3)信州農林科学振興会賞	
・遠藤 勝紀 信州大学大学院 総合理工学研究科 総合理工学専攻 食品免疫機能学研究室	
「ガレート型プロシアニジンによる自己免疫疾患改善効果の検証」	
5. 教育研究等助成金贈呈式 令和6年6月28日	

同窓会・財団への寄付者 (2023年9月1日～2024年5月末日現在) どうもありがとうございました

<p>■同窓会への寄付者</p> <p>[農学科]</p> <p>S32 原知由</p> <p>S38 伊藤幹二</p> <p>S38 橋本義人</p> <p>S39 村瀬史朗</p> <p>S41 古川清昭</p> <p>S43 柳澤勝弘</p> <p>S44 倉橋寿</p> <p>[園農科]</p> <p>S46 角田ミサ子</p> <p>S48 和田豊久</p> <p>S49 林谷和憲</p> <p>S51 今泉秀哉</p> <p>S51 北村健</p> <p>S56 金井信之</p> <p>S56 山本敦</p> <p>S59 岩崎和幸</p> <p>S59 蔵之内利和</p> <p>S59 山本隆司</p> <p>[林学科]</p> <p>S39 小林寿朗</p> <p>S41 寺田恵子</p> <p>S44 三浦文也</p> <p>S46 田良島崇</p> <p>S52 米田泰治郎</p> <p>S53 郷原拓雄</p> <p>S62 田中学</p> <p>H2 石田誠一</p> <p>[畜産学科]</p> <p>S42 大原十三男</p> <p>S44 奥谷亮</p> <p>S49 野間滋久</p> <p>S50 伊東正吾</p> <p>S51 平元清和</p> <p>S52 黒木龍一郎</p> <p>S52 平松優</p> <p>S52 務台康博</p>	<p>[森林工学科]</p> <p>S45 塩耕重郎</p> <p>S45 明显晋</p> <p>S52 塩野由哲</p> <p>S54 神秀穂</p> <p>S55 居鶴明彦</p> <p>S58 伊藤浩亘</p> <p>S59 神野忠広</p> <p>S61 小林高浩</p> <p>S61 藤本武史</p> <p>[農芸化学科]</p> <p>S49 中村高義</p> <p>S51 内田博通</p> <p>S62 土井幸夫</p> <p>[生物生産科学科]</p> <p>H4 海内裕和</p> <p>[森林科学科]</p> <p>H6 牧野大輔</p> <p>H7 吉江和紀</p> <p>H13 三木敦朗</p>	<p>[生物資源科学科]</p> <p>H12 本山香苗</p> <p>[大学院農学研究科]</p> <p>H9 上原巖</p> <p>H25 西澤太貴</p> <p>合計金額</p> <p>¥265,500</p> <p>■財団への寄付者</p> <p>[農学科]</p> <p>S38 伊藤幹二</p> <p>S44 倉橋寿</p> <p>[園農科]</p> <p>S50 桑森亮</p> <p>S51 北村健</p> <p>S55 大橋孝保</p> <p>S56 金井信之</p> <p>S56 山本敦</p> <p>S59 岩崎和之</p>	<p>S59 蔵之内利和</p> <p>H2 渡辺真一</p> <p>[林学科]</p> <p>S36 今井達雄</p> <p>S46 田良島崇</p> <p>S52 米田泰治郎</p> <p>S55 山本祥子</p> <p>S62 田中学</p> <p>[畜産学科]</p> <p>S42 大原十三男</p> <p>S42 嶋倉雅司</p> <p>S50 伊東正吾</p> <p>S52 黒木龍一郎</p> <p>S57 前田宗廣</p> <p>[森林工学科]</p> <p>S45 塩耕重郎</p> <p>S52 塩野由哲</p> <p>S54 高木鍊一</p> <p>S55 居鶴明彦</p> <p>S56 新宅悌二</p> <p>合計金額</p> <p>¥156,500 (敬称略)</p>	<p>[農芸化学科]</p> <p>S49 中村高義</p> <p>[生物生産科学科]</p> <p>H4 海内裕和</p> <p>[森林科学科]</p> <p>H11 中島真</p> <p>H16 村上啓</p> <p>[生物資源科学科]</p> <p>H6 吉田耕治</p> <p>H12 本山香苗</p> <p>[大学院農学研究科]</p> <p>H25 西澤太貴</p> <p>[植物資源科学コース]</p> <p>R4 堀礼人</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

退職のご挨拶

20年前の2月29日、私は企業人でした。そして、翌日の3月1日から信州大学に縁を得て大学人になります。私にとって大きな選択でしたが、今の幸せがあるのはそのときの選択のおかげです。そして何より同僚の皆さんや、私と研究を共にしてくれた教え子みんなのおかげです。本当に感謝しています。

先年、40年ぶりに私自身の学生時代の同窓会に参加しました。学生時代、青かった奴らがいい味を出していませんか？いい歳をとっているなとうれしくなりました。その味と言えば、だしに二番だしがあるのを知っていますか？一番だしは、昆布と鰹節を煮て旨味を引き出したものですが、二番だしはその一番だしにさらに具材を加えて弱火でコトコト煮て、ゆっくりと強い旨味とコクを引き出したものです。和食はこのだしで決まると言いますが、特に煮物は二番だしが命だそうです。一番だしだけではだめなのです。先ほど同窓生はいい歳をとっているなど言いましたが、だしの話、人生にも通じると思いませんか？大学で学んで身についたものが一番だしなら、その後、社会に採まれて色々な喜怒哀楽、紆余曲折を繰り返し

信州大学農学部名誉教授 池田 正人

た後に滲み出る人それぞれの味が二番だし。人生を一生懸命生きていく中で、コクと風味の二番だしが出て来るのだと思います。

同窓生の皆さんは今それぞれの道を歩んでいようと、同じ一番だしをまとった仲間です。まずはそのことを忘れないでください。同窓生というのはものすごい力になります。そして次は二番だし。その具材は人生で言えば、順風満帆ではなく逆境です。必ずどこかで来る苦労はいい二番だしをとるためと思って立ち向かってください。色々なところに住み色々な人と話をしてください。それを経て、味のある、面白い人になってほしいと思います。まさに、人生の二番だしを醸す人になってください。



茅原紘先生を偲んで “笑う門には福来たる”

信州大学農学部名誉教授 千 菊夫



発芽玄米の研究者、カエルの先生、画伯、ヨッホッホッの挨拶ー茅原先生（農S40）を語るキーワードは多々あるが、私は「笑門来福」を貰われた先生を語りたい。

先生と私の交流は、私が農芸化学科助手に着任した折の学科歓迎会に遡る。会場は伊那まちのA旅館。女将さんに「よろしかったら御宴会の前にお風呂

をどうぞ」と勧められて、先生に誘われ二人でお湯に浸った。裸の付き合いの始まりである。先生は私より十八歳年上であるが、どちらも宴会好きで波長が合ったせい、夜の街をご一緒する機会が多かった。先生は人を笑わせることが大好きだったので、同行者のリフレッシュ度はいつも大きかった。また、先生はサービス精神旺盛で、腰をツイストしながら「赤いランプの終列車」などの懐メロを熱唱して場を盛り上げ、自らも心底楽しんでおられたので、皆が幸せな気分になった。

農学部キャンパスでも、忘れ得ぬ思い出がある。私はしばしば先生からネタを仕込んだ声がけをされたり悪戯を仕掛けられたりした。例えば、先生が身長の高い私に「どや、上の空気は薄いか？」と声がけ。それに対して「はい、薄いので息苦しいです」と答えると、先生は「よしよし」と満面の笑み。また、先生が歩いて来られる方へ廊下を進んで行くと忽然と先生の姿が消え、さらに私が歩みを進めると物陰から大声で「わっ！」と不意打ち。このお茶目な悪戯は何度も仕掛けられていたので多くの場合は心の準備ができたが時には完全に不意を突かれたことも。「わっ！」の脅かし声の後には決まって「どや、びっくりしたか？」の質問が続き、私が「心臓が止まりそうでした」と答えると、先生の満足げな「よしよし」が続いた。どれも愉快な思い出だ。

この寄稿文と共に掲載されている写真は茅原先生の「遺影」であるが、Vサインもまたお茶目である。鬼籍に入られても、現世と変わらず多くの人々を笑わせ幸せにしておられるに違いない。謹んで哀悼の意を表し、合掌。

人事

- 令和6年3月31日
【退職】 萩田 佑 助教
- 令和6年4月1日
【採用】 池田 敬 助教
(テニユア・トラック)
- 野村 亘 助教
(テニユア・トラック)
- BAGOUDOU ABDEL FAWAZ 助教
(特定雇用)

- 令和6年4月1日
【昇進】 上原 三知 教授
竹田 謙一 教授
三谷 皇一 准教授

- 令和6年4月1日
【名誉教授称号授与】 池田 正人 元教授
植木 達人 元教授
千 菊夫 元教授
萩原 素之 元教授

- 令和7年3月31日
【定年退職予定】 春日 重光 教授
藤田 智之 教授

叙 勲

- 令和5年7月11日 有馬 博 元教授
叙位(従四位) 叙勲(瑞中)
- 令和5年9月22日 黒澤 辰一 元教授
叙位(正四位) 叙勲(瑞中)

計 報

- 令和6年4月25日 茅原 紘
元教授、元同窓会長、同窓会連合会会長
- 令和5年5月28日 池田宗兵衛(専農S26)
(公財)農林科学振興会初代会長

農学部80周年記念式典・イベントの開催について

信州大学農学部及び同窓会の連携に関する合同推進委員会
委員長 松島 憲一(園H3)
監事 内川 義行(生H4)

来年度(令和7年度)に信州大学農学部は創立80周年を迎えます。これに向けて80周年記念式典実施のための日程や内容について信州大学農学部、信州大学農学部同窓会、および、卒業生と教員とで構成される「信州大学農学部及び信州大学農学部同窓会の連携に関する合同推進委員会」で検討を重ねてまいりました結果、令和7年10月12日の日曜日(連休の中日)に式典とイベントを開催することになりました。午前中は記念式典に続いて元長野県副知事の中島恵理氏や伊那市長白鳥孝氏をお招きして「地域にとって信大農学部とは何なのか:SDGsの視点から考える」と題したシンポジウム、午後はホームカミングデーとして、卒業生、在校生

または地域の皆様が様々な講演、展示もしくはトークセッションを行う様々なブースを開設し、自由に行き来できるようにして、交流を深めていただくという企画を計画しております。どうぞ多くの卒業生の皆様にお越し頂きたくお願いいたします。

なお、このホームカミングデー企画の一環として、現役学生有志が卒業生の皆様を訪問させていただき、学生生活での思い出、今の人生に大きな影響を与えた事柄、さらには今後の夢などを、本年度(令和6年度)から順次インタビューしていくことを計画しております。その結果をホームページ等で発信することで好評を得た卒業生の方々を、この80周年当日お招きして、トークイベントを開催しようと計画しております。現役学生有志らは80周年にちなんで80名の卒業生に話が聞ければ!と意気込んでおりますので、訪問依頼を受けた方々はどうぞ、ご協力をいただければと存じます。

また、後日、募集いたしますがホームカミングデー企画へのブース出展についても、ご協力頂きたく存じますので、よろしくお申し上げます。

農学部80周年記念式典・イベント

日程 令和7年10月12日(日)

信州大学農学部
場所 (伊那キャンパス)

プログラム

- ① 80周年記念式典・シンポジウム(10:00~12:10、30番教室)
「地域にとって信大農学部とは何なのか:SDGsの視点から考える」
登壇者:中島 恵理(元長野県副知事 富士見町在住)
白鳥 孝(伊那市長)
米倉 真一(農学部長)
ファシリテーター:三木 敦朗(農学部助教)
- ② 記念祝賀会(12:30~14:00、生協食堂)
- ③ ホームカミングデー企画(14:30~16:30、講義棟)
卒業生・在校生・地域の皆様によるブースとそれによる相互交流イベント

信州大学農学部創立80周年記念募金ご寄付について

農学部同窓会長 辻井 弘忠(畜S43)

平素より、信州大学農学部の同窓会活動へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

信州大学農学部は、1945年(昭和20年)に長野県立農林専門学校を創立の起点とし、1949年(昭和24年)に国立信州大学となり、2003年(平成15年)から国立大学法人信州大学として現在に至っております。2015年には、食料生産科学科、森林科学科、応用生命科学科を農学生命科学科(4コース:生命機能科学コース、動物資源生命科学コース、植物資源科学コース、森林・環境共生学コース)に改組しました。アルプ스에 囲まれた四季折々のキャンパスで、「知の森で学び、知の森で考えよう」という校風のもと、豊かな自然に恵まれた環境で学問と研究を展開し、先駆的・独創的な研究を進展させてきました。これらを背景に、80年余の

歴史の中で、卓越した学問・研究業績はもちろんのこと、各分野のリーダーとして中核を担い、社会で活躍する学部卒業生と大学院修了生を輩出してまいりました。

創立80周年記念(令和7年10月12日)には、式典、講演会、ホームカミングデーなどが催されます。また、同窓会では「農学部の80年の歩み」(写真集)を発行します。

農学部同窓会は、信州大学農学部が、50年、100年後そしてその先の未来を見据え、80年の伝統の中で培ってきた知の財産や人的資源を継承し、新しい時代と社会の要請に応えるべく教育・研究の充実を図れるよう、協力を惜しまず支援したいと存じます。農学部の将来を考え、創立80周年記念式典ならびに長期的に安定した財務基盤の強化、基金の充実が不可欠です。卒業生の方々をはじめ、教職員、個人、企業、団体の皆様におかれましては、「80周年記念募金」への温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお申し上げます。

※詳しくは、同封の「信州大学創立80周年記念事業寄附金のお願ひ」のチラシをご覧ください。

No.40

yurinoki@shinshu-u.ac.jp

編集・発行/信州大学農学部同窓会

〒399-4511 長野県上伊那郡南箕輪村8304 TEL/FAX 0265-76-8501

発行日/令和6年8月20日 印刷/玄冬

